



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
えな史 17

岩村電気軌道

全国15番目に開通



岩村町飯羽間を走る電車

ひと口メモ

電力王と呼ばれた福沢桃介が、矢作川上流に発電所を造るために設立された矢作水力と合併し、建設資材の輸送の役目も担った。電車は人が歩くよりも少し速いくらいの速度で運転され、電車が来ると家の電灯が暗くなるというエピソードもあった。

県下初の電気軌道であり、全国で7番目に着工し15番目に開通した電車。1902(明治35)年の中央西線開通により、商業の中心から地位が一転した岩村を守るため、浅見与一右衛門は大井・岩村間に鉄道を敷設し、旅客と貨物を運ぶ計画を立案。岩村電気軌道(株)を1903(明治36)年に設立し、小沢峡谷の難工事や、日露戦争、水害などの困難を克服し、1906(明治39)年に全線を開通。電車の電力供給は小沢発電所からで、1907(明治40)年には電力事業として、岩村・本郷・東野・長島・大井・坂本の1,600余りの電灯をともした。その後電灯収入が会社の経営を潤した。鉄道省(国鉄)明知線の開通により、輸送量が激減し1935(昭和10)年に全廃。

明知鉄道

人と地域を結ぶ

えな自慢
えな業 18



岩村駅で乗客を乗せる明知鉄道

ひと口メモ

2010(平成22)年3月にDMV(デュアル・モード・ビークル)の実証実験を行う。DMVとはJR北海道が開発する、鉄路と道路の両方を走行可能な車両。この実験は、国土交通省の新たな技術・地域公共交通システムの普及促進調査の一環として、恵那市が実施する。

1985(昭和60)年に、旧国鉄明知線を引き継いで開業した第3セクター鉄道。経営は恵那市をはじめ、県や中津川市、地元企業などが出資する明知鉄道(株)が行う。恵那駅を起点、明智駅を終点とする25.1kmを結び、恵那市内9、中津川市内2の11駅がある。急勾配と急曲線の連続する路線であり、1991(平成3)年に開業した飯沼駅の駅構内の勾配は33パーミル(1,000mあたり33m上がる計算)。日本で第1位の急勾配駅(鋼索式鉄道を除く)として知られる。ちなみに、野志駅が第2位。現在は急勾配の所には、駅の開業許可が降りなくなったため、飯沼駅がある限りこの日本一は破られない。生活や観光の足として重要な路線だが、利用者の減少が続き経営状況は厳しい。このため、寒天列車、きのこ列車などのイベント列車を企画・運行し、また平成20年12月には11番目の駅「極楽駅」を開業するなどして、経営努力を続けている。

次号は2月15日号
発行日は2月15日(月)です

広報えな No.121
2010年(平成22年)
2月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』2月1日号、1部当たりの印刷経費は約11.3円(税込)です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
問い合わせ 防災対策課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。